

1 回生総合科目

授業名	総合基礎演習 I xa		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	伊藤 真昭		対象学生	歴史1回生		
授業の概要	自ら考え・自ら調べ・自らと対話し、他者とのコミュニケーションをはかる。					
学習成果到達目標	1) 学習の方法と基礎学力の向上を図る。 2) 関心や目的意識を喚起することを目標とする。					
評価方法	定期試験 (50 %) □筆記試験 ☒ レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験 (50 %) □筆記試験 ☒ レポート □制作物 ☒ 口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 □() □()				
テキスト	担当教員が随時配布する。					
参考書	朝尾直弘；他編『角川新版日本史辞典 最新版』【角川学芸出版】、『詳説日本史図録』（山川出版社）などを持っているのが望ましい。					
留意事項	歴史学研究を行う2年間であるという目的意識をもって講義にのぞむこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス—過去を問うこと		(内 容) 歴史学とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) よく聞き、忘れないこと。			
第2回	歴史学の基礎研究		(内 容) 歴史学研究の基礎について学ぶ。 (必要な準備) 各自、歴史に対するイメージを深めること。			
第3回	歴史学の研究方法—参考文献の調べ方		(内 容) 先行研究の調べ方について (必要な準備) 前回の講義内容を整理し把握しておくこと。			
第4回	歴史学の研究方法—史料篇(漢文篇)		(内 容) 漢文史料について学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義内容を整理し把握しておくこと。			
第5回	歴史学の研究方法—史料篇(古文書篇)		(内 容) 古文書の基礎知識を学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義内容を整理し把握しておくこと。			
第6回	学外授業事前学習		(内 容) 学外授業先について事前学習 (必要な準備) 学外授業先について調べる			
第7回	学外授業事前学習		(内 容) 学外授業先について事前学習 (必要な準備) 学外授業先について調べる			
第8回	学外授業		(内 容) 調べた学外授業先を訪れる。 (必要な準備) 事前学習をしっかりとる			
第9回	学外授業 事後学習		(内 容) 学外授業先について振り返る (必要な準備) 記憶・記録の整理			
第10回	文献講読 1		(内 容) 文献を輪読する (必要な準備) 一読し、分からない用語を調べる			
第11回	文献講読 2		(内 容) 文献を輪読する (必要な準備) 一読し、分からない用語を調べる			
第12回	文献講読 3		(内 容) 文献を輪読する (必要な準備) 一読し、分からない用語を調べる			
第13回	レジュメの作り方		(内 容) レジュメの理解 (必要な準備)			
第14回	発表と議論 1		(内 容) グループのテーマについての発表・議論 (必要な準備) グループでの事前学習とレジュメ			
第15回	発表と議論 2		(内 容) グループのテーマについての発表・議論 (必要な準備) グループでの事前学習とレジュメ			
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する					

授業名	総合基礎演習 I xb		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	新矢 昌昭		対象学生	歴史1回生		
授業の概要	この講義では、華頂短期大学歴史学科に慣れ親しんでもらうことが第一の目標である。まずは、史料や文献の集め方、読み方、レジュメの作成方法と発表・議論の仕方を学ぶ。					
学習成果到達目標	1) 自分たちの考えをレジュメに作成し、発表できるようにする。 2) 質疑応答に慣れる。 3) コミュニケーション力とプレゼンテーション能力の向上。					
評価方法	定期試験 (50 %)		☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (50 %) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技	
評価基準	主たる評価の観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 <input checkbox="" type="checkbox/>() <input type="/> ()				
テキスト	使用しない。					
参考書	講義中に指摘。					
留意事項	グループで課題を決め発表する時は、どのようにするのかを話し合っておくこと。講義中は、必ず数回は発言すること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス—過去を問うこと		(内 容) 歴史学とは何かについて学ぶ (必要な準備) よく聞き、忘れないこと			
第2回	歴史学の基礎研究		(内 容) 歴史学研究の基礎について学ぶ (必要な準備) 各自、歴史に対するイメージを深めること			
第3回	歴史学の研究方法—参考文献の調べ方		(内 容) 先行研究の調べ方について (必要な準備) 前回の講義内容を整理し把握しておくこと			
第4回	歴史学の研究方法—史料篇(漢文篇)		(内 容) 漢文史料について学ぶ (必要な準備) 前回の講義内容を整理し把握しておくこと			
第5回	歴史学の研究方法—史料篇(古文書篇)		(内 容) 古文書の基礎知識を学ぶ (必要な準備) 前回の講義内容を整理し把握しておくこと			
第6回	学外授業事前学習		(内 容) 学外授業先について事前学習 (必要な準備) 学外授業先について調べる			
第7回	学外授業事前学習		(内 容) 学外授業先について事前学習 (必要な準備) 学外授業先について調べる			
第8回	学外授業		(内 容) 調べた学外授業先を訪れる (必要な準備) 事前学習をしっかりとる			
第9回	学外授業 事後学習		(内 容) 学外授業先について振り返る (必要な準備) 記憶・記録の整理			
第10回	文献講読 1		(内 容) 文献を輪読する (必要な準備) 一読し、分からない用語を調べる			
第11回	文献講読 2		(内 容) 文献を輪読する (必要な準備) 一読し、分からない用語を調べる			
第12回	文献講読 3		(内 容) 文献を輪読する (必要な準備) 一読し、分からない用語を調べる			
第13回	レジュメの作り方		(内 容) レジュメの理解 (必要な準備)			
第14回	発表と議論 1		(内 容) グループのテーマについての発表・議論 (必要な準備) グループでの事前学習とレジュメ			
第15回	発表と議論 2		(内 容) グループのテーマについての発表・議論 (必要な準備) グループでの事前学習とレジュメ			
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する					

授業名	総合基礎演習 I ya		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	山本 明美		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	食育の重要性が注目されている。食べ物の栄養価だけでなく栽培方法や噛むことの重要性など様々な側面からの食育が実践されている。保育者として食事の援助を行い、保育者自身が健康、食材、季節の変化、食べ方などに関心を持ち、実践できることを目標とする。方法としては、アクティブラーニング形式で行う。					
学習成果 到達目標	食育に関しての課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養い、深い洞察力和豊かな人間性を備えた有意な人材の育成を目指す。 ① 「興味・関心・課題をもって学習すること」ができる。 ② 「課題探求に対する主体性・創造性を育む」ことができる。 ③ コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。					
評価方法	定期試験 (50 %) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (50 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 <input 6"="" type="checkbox/>(</td></tr><tr><td>テキスト</td><td colspan="/> 使用しない				
参考書	使用しない					
留意事項	積極的に参加すること					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション		(内 容) (必要な準備)	大学で学ぶことの理解 自己紹介の準備		
第2回	子どもを取り巻く食環境について		(内 容) (必要な準備)	目標設定と共有化 身の食に関する問題点を考えておく		
第3回	研究課題の設定		(内 容) (必要な準備)	研究テーマをきめ、研究計画をたてる 研究テーマを考えておく		
第4回	フィールドワーク		(内 容) (必要な準備)	大学周辺を散策し、春の季節を感じる 動きやすい服装で参加する。		
第5回	情報収集(図書館やインターネットの利用)		(内 容) (必要な準備)	インターネットや図書館を活用して必要な情 報を集める 集めた資料をよく読んでおく		
第6回	情報収集(新聞記事)		(内 容) (必要な準備)	新聞記事や雑誌から資料を集める 資料をよく読んでおく		
第7回	情報収集の整理		(内 容) (必要な準備)	資料の整理 資料をよく読んでおく		
第8回	情報の収集		(内 容) (必要な準備)	不足している資料を収集する 資料について、考えをまとめておく		
第9回	情報の整理		(内 容) (必要な準備)	収集した資料の整理 資料について、考えをまとめておく		
第10回	発表と討論		(内 容) (必要な準備)	研究発表を行う 研究発表の準備をしておく		
第11回	情報の収集		(内 容) (必要な準備)	資料を収集する 資料の整理		
第12回	発表と討論		(内 容) (必要な準備)	研究発表を行う 研究発表の準備をしておく		
第13回	レポートの提出		(内 容) (必要な準備)	レポート発表 収集した資料をまとめ、レポートを完成する		
第14回	教員との個別面談		(内 容) (必要な準備)	目標の新捗状況確認と軌道修正 目標を整理しておく		
第15回	教員との個別面談		(内 容) (必要な準備)	夏休みの課題説明 夏休みの過ごし方を考えておく		
オフィス アワー	木曜日 午後 16 時から 18 時まで					

授業名	総合基礎演習 I yb		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	下温湯 まゆみ		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	子どもの遊びや文化を身近に感じ、自らも体験する中で、乳幼児教育に興味を持って考え学ぶ機会とする。また、ゼミ生同士の交流を図り、お互いに学び合う。					
学習成果到達目標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野・知識・教養を養う。 2) 深い洞察力和豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす。					
評価方法	定期試験 (%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (100 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ (				

授業名	総合基礎演習 I yc		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	乾 眞理子		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	幼児教育に必要な教材研究をとおして、主体的に学ぶ姿勢を身につけ課題解決のための方法を知る。					
学習成果到達目標	1) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けることができる。 2) 興味・関心・課題をもって学習することができる。 3) 人類に共通する諸課題を任意に設定し、課題探求に対する主体性・創造性を育むことができる。					
評価方法	定期試験 (%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (100 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 				

授業名	総合基礎演習 I yd		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	岸 優子		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概 要	乳幼児教育について理論的・実践的に学ぶことによって、子どもを身近に感じ、自らも子どもとかかわることをめざす。また、ゼミ生同士の交流を図り、お互いに学び合う。					
学習成果到達目標	1) 乳幼児の保育に関わる保育者の役割と課題を理解し、子育て支援についての視野をひろげ、知見を深める。 2) 深い洞察力と豊かな人間性、感性豊かな保育者の役割を理解し、自らの保育者像を創造することができるようになる。 3) 保育や子育てについての問題意識を持つことができるようになる。					
評価方法	定期試験 (20 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (80 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 協調性) ☒ リーダーシップ)				
テキスト	なし					
参考書	随時、必要に応じて紹介する。					
留意事項						
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーションと自己紹介		(内 容) ゼミの目的を理解し、ゼミの交流を図る。			
第2回	学生生活や履修について		(内 容) 学生生活や履修内容を理解する。あわせて校内の散策をする。 (必要な準備) 自己紹介の内容を考えてくる。			
第3回	フィールドワーク(1)		(内 容) 周辺を散策し、春の自然に親しむ。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。			
第4回	子どもと子育てについての理解を深める①		(内 容) 保育についての考え方の多様性を理解する。			
第5回	フィールドワーク(2)		(内 容) 保育についての研究課題を考える。 (必要な準備) 子育てに関する施設について調べる。			
第6回	子どもと子育てについての理解を深める②		(内 容) 各自の研究課題を紹介し、発表する。 (必要な準備) 課題を選んでくる。			
第7回	フィールドワーク(3)		(内 容) 各自の研究課題を紹介し、意見交換をする。 (必要な準備) 研究課題を考えてくる。			
第8回	絵本づくり①		(内 容) 選んだ研究課題をもとに紙芝居を作る。 (必要な準備) 題材を選んでくる。			
第9回	絵本づくり②		(内 容) 選んだ研究課題をもとに紙芝居を作る。 (必要な準備) 必要な材料を持ってくる。			
第10回	絵本づくり③		(内 容) 選んだ研究課題をもとに紙芝居を作る。 (必要な準備) 必要な材料を持ってくる。			
第11回	フィールドワーク(4)		(内 容) 野外に出かけ、身近な自然を体験する。 (必要な準備) 動きやすい服装で参加する。			
第12回	絵本の発表		(内 容) 制作した絵本を発表する。 (必要な準備) 絵本を完成させ持ってくる。			
第13回	個人面談①		(内 容) 学生生活全般・進路などについて相談する。 (必要な準備)			
第14回	個人面談②		(内 容) 学生生活全般・進路などについて相談する。 (必要な準備)			
第15回	まとめ 秋学期の課題に繋げる		(内 容) 春学期を振り返り、秋学期の取り組みを考える。 (必要な準備) 春学期の内容についてまとめておく。			
オフィスアワー	月曜日・火曜日 12 時 10 分から 13 時					

授業名	総合基礎演習 I ye		開講学年	1 回生	単位数	1 単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	堀出 雅人		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	1 回生春学期のゼミであり、建学の精神に基づき人類に共通する多様なテーマや社会全体に関わる課題を任意に設定し、学生の課題探求に対する主体性・創造性を育むとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等の向上をめざすことを目標とする。さらに、導入教育として担当教員と受講学生相互の交流を図りながら、興味・関心・課題をもって大学で学ぶことへの動機付けを図る。					
学習成果到達目標	1) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身に付けることができる。 2) 興味・関心・課題をもって学習することができる。 以上2点から、幅広い視野、知識、教養を養うなかで、自己の課題を見出し、深い洞察力和豊かな人間性を伸ばすことをめざします。					
評価方法	定期試験 (%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 					

授業名	総合基礎演習 I yf		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	浅田 瞳		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	現代社会における就学前教育のあり方をテーマに、絵本の研究などを行なう。また、大学に入学したばかりの学生がよりよい大学生活を行うために必要なスキルや知識を身につけ、大学生活が円滑に送れるような演習を行う。					
学習成果到達目標	1) 学内外において、教育・保育の体験を積み重ね、専門知識の幅を広げ、実践力を身につけることができる。 2) 乳幼児期の人間形成に重要な役割を担う自覚を持つことができる。 3) 他者との協調を図り、豊かな人間関係を築くことができる。					
評価方法	定期試験 (%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (100 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 				

授業名	総合基礎演習 I yh		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	名賀 亨		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	新入生が、ゼミは安全で安心できる大学での学びのベース（居場所）であることを確認し、ゼミを拠点にしなが ら大学生活を送るとともに、大学での学びを深めていく。そのため、ゼミを完全に独自のものとして位置づける のではなく、全体で連携をもち協力しながら到達目標を目指して進めていく。方法として、全体グループワーク、 ゼミ独自グループワーク、ワークショップなどを組み合わせながら進めていく。					
学習成果 到達目標	自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養い、深い洞察力と豊かな人間性を備えた有意な人材の育成を 目指す。 ①「興味・関心・課題をもって学習すること」ができる。 ②「人類に共通する諸課題を任意に設定し、課題探求に対する主体性・創造性を育む」ことができる。 ③コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。					
評価方法	定期試験 （ 60 %） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 （ 40 %） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☐ （ ） ☐ （ ）				
テキスト	使用しない					
参考書	随時紹介する。					
留意事項	アクティブラーニング手法で授業を進めていくので、主体的かつ積極的に参加すること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス		(内 容) 大学で学ぶことの理解 (必要な準備)			
第2回	ガイダンス		(内 容) 目標設定と共有化 (必要な準備) 自分自身の学びの目標を考えておく			
第3回	自己紹介とつながり		(内 容) メンバーの自己紹介を通して関係を創る (必要な準備) 自分自身の特性を整理しておく			
第4回	ワークショップ 他者との関係性の理解		(内 容) 他者との関係性について理解する (必要な準備) ゼミの中での自分の位置を整理しておく			
第5回	ワークショップ 自己覚知と価値観の理解		(内 容) 他者との違いを理解する (必要な準備) 前回のワークショップを振り返っておく			
第6回	ワークショップ コミュニケーションの理解		(内 容) コミュニケーションを理解する (必要な準備) 前回ワークショップを振り返っておく			
第7回	ワークショップ グループアプローチの理解		(内 容) グループアプローチを理解する (必要な準備) 前回ワークショップを振り返っておく			
第8回	ワークショップ 組織活動と意思決定		(内 容) 組織活動と意思決定について理解する (必要な準備) 前回ワークショップを振り返っておく			
第9回	ワークショップ 価値の明確化		(内 容) 価値観の相違について理解する (必要な準備) 前回ワークショップを振り返っておく			
第10回	保育に関する地域課題の確認と整理		(内 容) 地域課題の実際について理解する (必要な準備) 大学周辺地域を自身の目で見ておく			
第11回	保育に関する地域課題の設定と 調査方法の整理		(内 容) 関心のある地域課題を設定する (必要な準備) 自分の興味関心があることを考えておく			
第12回	個人発表とディスカッション		(内 容) 設定した課題と調査方法について発表 (必要な準備) 発表内容と方法を整理しておく			
第13回	個人発表とディスカッション		(内 容) 設定した課題と調査方法について発表 (必要な準備) 発表内容と方法を整理しておく			
第14回	教員との個別面談		(内 容) 目標の新捗状況確認と軌道修正 (必要な準備) 目標を整理しておく			
第15回	春学期の振り返りと夏休みの課題出題		(内 容) 夏休みの課題説明 (必要な準備) 夏休みの過ごし方を考えておく			
オフィス アワー	水曜日 昼休み					

授業名	総合基礎演習 I yi		開講学年	1 回生	単位数	1 単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	藤井 裕子		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概 要	短期大学での 2 年間の学習の成果が出るように、主体的に学ぶ姿勢を身につける。 レポートの作成や文献の収集、プレゼンテーションの方法を学ぶ。 子どもに関する社会の出来事や保育関連の情報に関心を持ち視野を広げる。 コミュニケーションを深め和やかな人間関係を構築する。					
学習成果到達目標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う。 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす。 3) 人間形成の基礎を培う保育に関わるということに心構えを自覚する。					
評価方法	定期試験 (50 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (50 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☒ 創造性) ☐ (				
テキスト	プリント					
参考書	随時提示する					
留意事項	自ら主体的に学び、テーマを掘り下げる。積極的に取り組む姿勢を持つ。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス、互いの自己紹介、心構えを語り合う		(内 容)	本講義の目的を理解し学習の流れをつかむ。 自己紹介してコミュニケーションを深める。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第2回	各自の学生生活への希望や目標を語りあう。コミュニケーションを深める。ノート、レポート、文献の読み方を学ぶ。		(内 容)	学生生活の目標を持つ。学習計画を立てる。 学生相互のコミュニケーションを深める。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第3回	学生生活を円滑に行うための基本的知識。コミュニケーションを深める。ノート、レポート、文献の読み方を学ぶ。		(内 容)	ノートの取り方、レポートの作成の仕方を学ぶ。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第4回	学生生活を円滑に行うための基本的知識。図書館の利用の仕方を学ぶ。		(内 容)	参考となる文献を探す。図書館を上手に利用する。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第5回	学外授業		(内 容)	大学周辺の史跡を散策し、伝統文化に触れる。 (必要な準備) 配布プリントを読む。		
第6回	アクティブ・ラーニングを基盤にした学びの試み		(内 容)	主体的な学びを促進する。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第7回	アクティブ・ラーニングを基盤にした学びの試み		(内 容)	主体的な学びを促進する。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第8回	アクティブ・ラーニングを基盤にした学びの試み		(内 容)	主体的な学びを促進する。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第9回	子どもに関する内容について、各自の興味に基づいて新聞やメディアの情報、文献を集める。		(内 容)	子どもに関する最近の情報の収集。 (必要な準備) ノート		
第 10 回	子どもに関する内容について、各自の興味に基づいて新聞やメディアの情報、文献を集める。		(内 容)	子どもに関する最近の情報の収集。 (必要な準備) ノート		
第 11 回	子どもに関する内容について、各自の興味に基づいて新聞やメディアの情報、文献を集める。		(内 容)	子どもに関する最近の情報の収集。 (必要な準備) ノート		
第 12 回	各自の学びの進捗状況について面談		(内 容)	各自の学習の進捗状況について個人面談。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第 13 回	各自の学びの進捗状況について面談		(内 容)	各自の学習の進捗状況について個人面談。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第 14 回	各自の学びの進捗状況について面談		(内 容)	各自の学習の進捗状況について個人面談。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
第 15 回	春学期の反省と夏期休業中の課題		(内 容)	春学期の総復習。質疑応答。ノート点検。夏期休業中の課題を提示する。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル		
オフィスアワー	随時研究室に日時を提示する					

授業名	総合基礎演習 I yj		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	坂口 みゆき		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	季節感のある物事・生命・絵本などに触れ、幼児期の生身の体験とその感動を思い出す。また、プレゼンテーションや絵本の読み聞かせ体験などを通して、子どもの目線になってそれらを伝える方法を学ぶ。					
学習成果到達目標	自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養い、深い洞察力和豊かな人間性を備えた有意な人材の育成をめざす。					
評価方法	定期試験 (20 %) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技		平常試験 (80 %) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☐ () ☐ ()				
テキスト	使用しない。					
参考書	使用しない。					
留意事項	まず自分自身が様々な体験を通して学ぶことが、子どもへの教育・保育へと繋がると思います。積極的に取り組む意欲や姿勢を重視します。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	イントロダクション		(内 容) 春学期の授業計画説明・自己紹介 (必要な準備) シラバス			
第2回	フィールドワーク(学内探索)		(内 容) 学内を探索し、春らしさに触れる。 (必要な準備) キャンパスライフ・メモ用紙・筆記用具・動きやすい服装と靴			
第3回	グループワーク①:フィールドワークで発見したことをまとめる		(内 容) 前回のフィールドワークで発見した「春らしいもの」を発表できるようまとめる。グループ単位でプレゼンテーションの準備をする。 (必要な準備) 前回のメモ			
第4回	・グループワーク②:フィールドワークで発見したことを発表 ・動物園見学の準備		(内 容) 前回準備したプレゼンテーションの実施。 (必要な準備) プレゼンテーションの準備			
第5回	学外授業:動物園見学		(内 容) 京都市動物園見学予定 (必要な準備) メモ用紙・筆記用具・動きやすい服装と靴・帽子など			
第6回	制作:遠足のしおりを作る		(内 容) 前回の見学を踏まえて、幼児向けの遠足のしおりを作る。 (必要な準備) 前回のメモ・動物園で入手した資料			
第7回	個別面談①		(内 容) 入学後1か月半経過して悩みや相談したいことなど (必要な準備) 面談で話したいことがあれば考えておく。			
第8回	個別面談②		(内 容) 入学後1か月半経過して悩みや相談したいことなど (必要な準備) 面談で話したいことがあれば考えておく。			
第9回	絵本①:絵本について学ぶ		(内 容) 絵本の種類や役割などについて学ぶ (必要な準備) 昔読んだことがある絵本を1冊選んでくる。			
第10回	絵本②:読み聞かせの練習		(内 容) グループ単位で読み聞かせの練習をする。 (必要な準備) 各自過去に読んだことがない絵本を選んでくる。			
第11回	絵本③:読み聞かせの体験		(内 容) みんなの前で絵本の読み聞かせをする。 聞いた絵本の内容を要約する。 (必要な準備) 読み聞かせの練習をしておく。			
第12回	絵本④:読み聞かせの体験		(内 容) 前回からの続き。 (必要な準備) 読み聞かせの練習をしておく。			
第13回	絵本⑤:読み聞かせの体験		(内 容) 前回からの続き。 (必要な準備) 読み聞かせの練習をしておく。			
第14回	季節の行事:七夕の制作と音楽		(内 容) 七夕用の笹に飾り付けをする。 「たなばたさま」をハンドベルで演奏する。 (必要な準備) はさみとりのり			
第15回	まとめ		(内 容) 春学期の感想、気づいたこと、秋学期に向けての課題などを発表し共有する。 (必要な準備) 発表する内容を考えておく。			
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。					

授業名	総合基礎演習 I yk		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	山部 泰司		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	様々な造形材料の体験・研究を通して、造形的な表現力や自ら工夫できる能力を養う。 学生がその活動からコミュニケーション能力を学ぶことのできる演習にしたい。					
学習成果 到達目標	1) 制作などを通して、自ら表現の方法を工夫できる力を養う。 2) 表現活動によって、様々な領域への興味関心を深める。 3) お互いの個性を理解し、長所に気付く。					
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (40%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☐ () ☐ ()				
テキスト	使用しない。					
参考書	必要に応じて指示する。					
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス		(内 容) 授業についての概要説明 (必要な準備) シラバスに目を通しておく			
第2回	学内フィールドワーク①		(内 容) 学内を歩く (図書館見学) (必要な準備) 筆記用具等			
第3回	課題研究・発表		(内 容) 私の推薦絵本 (必要な準備) 事前にレジュメを作成、提出する			
第4回	学外フィールドワーク①		(内 容) 学校周辺の自然 (必要な準備) 歩きやすい靴・服装で臨む			
第5回	学外フィールドワーク②		(内 容) 学校周辺のギャラリー (必要な準備) 歩きやすい靴・服装で臨む			
第6回	材料研究①		(内 容) 研究する材料を決める (必要な準備) 使えそうな材料について調べておく			
第7回	材料研究②		(内 容) 材料についてのアイデアを話し合う (必要な準備) 材料について考えておく			
第8回	材料研究③		(内 容) 材料についての実験 (必要な準備) 材料の特性を理解する			
第9回	材料研究④		(内 容) 材料をつかった課題を考える (必要な準備) 子どもの造形について調べておく			
第10回	研究発表		(内 容) 材料研究のまとめと意見交換 (必要な準備) 友達の取り組みやまとめから学ぶ			
第11回	学外フィールドワーク③		(内 容) 展覧会を見る (必要な準備) 歩きやすい靴・服装で臨む			
第12回	壁面制作①		(内 容) チームで壁面を制作する (必要な準備) アイデアを考えておく			
第13回	壁面制作②		(内 容) 壁面の制作 (必要な準備) 様々な表現方法について考える			
第14回	秋学期に向けて		(内 容) 秋学期の取り組みについて (絵本の制作) (必要な準備) 絵本づくりについて調べておく			
第15回	まとめ		(内 容) 授業の振り返り (必要な準備) 自分の学習成果と今後の課題について考える			
オフィス アワー	学生の希望にあわせて調整する。					

授業名	総合基礎演習 I y1		開講学年	1 回生	単位数	1 単位
英文名	Freshman Seminar I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	小川 隆昭		対象学生	幼児教育1 回生		
授業の概要	幼児期における音楽との関わりを考察し、また幼児教育での音楽の基礎知識を習得し、自分で表現できる力を養う。					
学習成果到達目標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う。 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす。					
評価方法	定期試験 (20 %) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技		平常試験 (80 %) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ (チームワーク) ☐ ()				
テキスト	使用しない。					
参考書	使用しない。					
留意事項	実習や、将来保育現場で役立つような実践的な授業を行う中で、特にコミュニケーション能力を付けられるように各自努力すること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス		(内 容) 春学期の授業計画説明 (必要な準備) シラバス・時間割			
第2回	歌唱・手遊び		(内 容) 基礎的な子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 子どもの頃に歌った子どものうたを思い出しておく。			
第3回	歌唱・手遊び		(内 容) 基礎的な子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 子どもの頃に歌った子どものうたを思い出しておく。			
第4回	交流会		(内 容) 教室外での仲間意識を高める。 (必要な準備)			
第5回	歌唱・手遊び		(内 容) 基礎的な子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 子どもの頃に歌った子どものうたを思い出しておく。			
第6回	歌唱・手遊び		(内 容) 基礎的な子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 子どもの頃に歌った子どものうたを思い出しておく。			
第7回	歌唱・手遊び		(内 容) 基礎的な子どものうたの歌唱と手遊び指導。 (必要な準備) 子どもの頃に歌った子どものうたを思い出しておく。			
第8回	個人相談		(内 容) 相談 (必要な準備)			
第9回	個別相談		(内 容) 相談 (必要な準備)			
第 10 回	歌唱・手遊び、リズム打ち		(内 容) リズム打ち (必要な準備)			
第 11 回	歌唱・手遊び、リズム打ち		(内 容) リズム打ち (必要な準備)			
第 12 回	合唱、リズム打ち		(内 容) 簡単な 2 部合唱。リズム打ち (必要な準備)			
第 13 回	リズム打ち		(内 容) リズム打ち (必要な準備)			
第 14 回	歌唱・手遊び、リズム打ち		(内 容) 太鼓を使っでのリズム打ち (必要な準備)			
第 15 回	まとめ、夏休みの課題		(内 容) 春学期の反省。夏休みの課題。 (必要な準備)			
オフィスアワー	後日研究室前に掲示。					

授業名	総合基礎演習Ⅱ xa		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	伊藤 真昭		対象学生	歴史1回生		
授業の概要	他者とコミュニケーションを深め、自ら考え・調べ・聞く・話す力を身につける。 史料読解力を身につける。					
学習成果 到達目標	1) 課題について取り組み、まとめることを目標とする。 2) 歴史の基礎について学ぶ。 3) 史料読解力を身につける。					
評価方法	定期試験 (50 %)		□筆記試験 ☒ レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験 (50 %) ☒ 口述 □実習 □実技	
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 □() □()				
テキスト	担当教員が随時配布する。					
参考書	強制ではないが、朝尾直弘・他編『角川新版日本史辞典 最新版』、『詳説日本史図録』（山川出版社）など揃えておくことが望ましい。					
留意事項	史料を読むという歴史学研究の基礎を学ぶ。そのため漢字辞書・国語辞書・歴史辞典、古語辞典などを必ず用いること。インターネットの情報には頼らないこと（ネットの情報は間違いが多いため）。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス 研究のいろは		(内 容) 講義の進め方 (必要な準備)			
第2回	文字史料を読む。		(内 容) 配布した文字史料読解する (必要な準備) 授業以外にも自習すること			
第3回	文字史料を入力する		(内 容) パソコンに文字史料を入力する。 (必要な準備) 授業以外にも自習すること			
第4回	文字史料を分析する		(内 容) 入力内容を分析する。 (必要な準備) 授業以外にも自習すること			
第5回	分析内容を検討する		(内 容) 分析した内容についてさらに深く検討する。 (必要な準備) 授業以外にも自習すること			
第6回	分析結果を発表する。		(内 容) 担当箇所の発表。 (必要な準備) レジュメ作成、報告準備			
第7回	発表内容を検討する。		(内 容) 各自の発表内容をグループ討論する。 (必要な準備) レジュメ作成、報告準備			
第8回	卒業研究中間発表会参加 1日目		(内 容) 2回生の卒業研究発表会に参加して発言する (必要な準備) 他者の意見に耳を傾けること。			
第9回	卒業研究中間発表会参加 2日目		(内 容) 2回生の卒業研究発表会に参加して発言する (必要な準備) 他者の意見に耳を傾けること。			
第10回	発表と議論 1		(内 容) 各自のテーマについての発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
第11回	発表と議論 2		(内 容) 各自のテーマについての発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
第12回	発表と議論 3		(内 容) 各自のテーマについての発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
第13回	発表と議論 4		(内 容) 各自のテーマについての発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
第14回	フィールドワーク		(内 容) 自らの歴史を豊かにする (必要な準備) 選定した地域についての事前学習			
第15回	発表と議論 5		(内 容) 各自のテーマについての発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する。					

授業名	総合基礎演習Ⅱ xb		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	新矢 昌昭		対象学生	歴史1回生		
授業の概要	春学期の発展であるこのゼミでは、基礎力を学んだ上で個人で課題を設定しレジュメを作成し、発表・議論してもらう。自らの考えを他人に理解してもらうことを通して、コミュニケーション力とプレゼンテーション能力の向上を図りたい。					
学習成果到達目標	1) 自分の考えをまとめレジュメに作成し、発表できるようにする。 2) 質疑に応えられるようにする。					
評価方法	定期試験 (50 %)	☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (50 %)	☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技	
評価基準	主たる評価の観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☐ () ☐ ()				
テキスト	使用しない。					
参考書	講義中に指摘。					
留意事項	講義中は、必ず数回は発言すること。学外フィールドワークを行う。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス 研究のいろは		(内 容) 講義の進め方 (必要な準備)			
第2回	文字史料を読む。		(内 容) 配布した文字史料読解する (必要な準備) 授業以外にも自習すること			
第3回	文字史料を入力する		(内 容) パソコンに文字史料を入力する (必要な準備) 授業以外にも自習すること			
第4回	文字史料を分析する		(内 容) 入力内容を分析する (必要な準備) 授業以外にも自習すること			
第5回	分析内容を検討する		(内 容) 分析した内容についてさらに深く検討する (必要な準備) 授業以外にも自習すること			
第6回	分析結果を発表する。		(内 容) 担当箇所の発表 (必要な準備) レジュメ作成、報告準備			
第7回	発表内容を検討する。		(内 容) 各自の発表内容をグループ討論する (必要な準備) レジュメ作成、報告準備			
第8回	卒業研究中間発表会参加 1日目		(内 容) 2回生の卒業研究発表会に参加して発言する (必要な準備) 他者の意見に耳を傾けること			
第9回	卒業研究中間発表会参加 2日目		(内 容) 2回生の卒業研究発表会に参加して発言する (必要な準備) 他者の意見に耳を傾けること			
第10回	発表と議論 1		(内 容) 各自のテーマについての発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
第11回	発表と議論 2		(内 容) 各自のテーマについて発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
第12回	発表と議論 3		(内 容) 各自のテーマについて発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
第13回	発表と議論 4		(内 容) 各自のテーマについて発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
第14回	フィールドワーク		(内 容) 自らの歴史を豊かにする (必要な準備) 選定した地域についての事前学習			
第15回	発表と議論 5		(内 容) 各自のテーマについて発表、そして議論 (必要な準備) 事前学習とレジュメ			
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する					

授業名	総合基礎演習Ⅱ ya		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	山本 明美		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	総合基礎演習Ⅰで学んだことを基礎に、食育についての計画・指導・展開を学ぶ。また、ゼミを拠点にしながら大学生生活を送るとともに、大学での学びを深めていく。そのため、ゼミを完全に独自のものとして位置づけるのではなく、全体で連携をもち協力しながら到達目標を目指してアクティブラーニング形式で進めていく。					
学習成果 到達目標	① 課題を設定し、資料を収集し解決できる。 ② 人間性豊かな幼児教育者として、感性を身につける。 ③ コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができる。					
評価方法	定期試験 (50 %)		☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (50 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☐ () ☐ ()				
テキスト	使用しない					
参考書	使用しない					
留意事項	積極的に参加すること					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	夏休みの課題発表		(内 容) 目標の達成に向けた進捗状況報告 (必要な準備) 発表の準備			
第2回	夏休みの課題発表		(内 容) 今後の抱負の発表 (必要な準備) 発表の準備			
第3回	フィールドワーク		(内 容) 自然との触れ合いの中で研究テーマ資料を探す (必要な準備) 研究テーマを考えておく			
第4回	研究課題の決定		(内 容) 研究テーマの決定と研究計画をたてる (必要な準備) 研究テーマを考えておく			
第5回	情報収集		(内 容) 情報収集手段を考える (必要な準備) 情報収集手段を考えておく			
第6回	情報収集		(内 容) 資料を集める (必要な準備) 資料をよく読んでおく			
第7回	資料の整理		(内 容) 問題の特定、適切な問題設定、配慮すべき要素の特定 (必要な準備) 研究の目的と実現すべき配慮を考えておく			
第8回	資料の整理		(内 容) 解決手段を考える (必要な準備) 問題点の整理			
第9回	発表の準備		(内 容) 発表方法を検討 (必要な準備) 発表の準備			
第10回	資料の整理		(内 容) 資料の収集 (必要な準備) 資料を整理して、よく読んでおく			
第11回	発表と討論		(内 容) 研究発表を行う (必要な準備) 研究発表の原稿の準備			
第12回	資料の収集		(内 容) 問題点を検討し修正する (必要な準備) 不足している資料を集め整理する			
第13回	レポートの発表と提出		(内 容) レポートの完成と発表 (必要な準備) 発表の準備			
第14回	成果発表		(内 容) 目標の到達度を各自まとめて発表する (必要な準備) 発表の準備			
第15回	成果発表		(内 容) 目標の到達度を各自まとめて発表する (必要な準備) 提出物の準備			
オフィス アワー	木曜日 午後16時から18時まで					

授業名	総合基礎演習Ⅱyb		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	下温湯 まゆみ		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	総合基礎演習Ⅰの経験をもとに、子どもの遊びや文化や生活全般から、各自課題を決めて取り組み、学びを深める。また、ゼミ生同士の交流を深め、協力しながらお互いに学び合う。					
学習成果到達目標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野・知識・教養を養う。 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす。					
評価方法	定期試験 (%)	☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (100 %)	☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ (				

授業名	総合基礎演習Ⅱyc		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	乾 眞理子		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	総合基礎演習Ⅰで学んだことを基礎に、絵本の完成と、主体的に問題を解決するための基本的な手法を学ぶ。また、意見交換の場を設定するので、他の人の意見にも耳をかたむけ、理解し、自分の考えを発表する。					
学習成果到達目標	1) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けることができる。 2) 興味・関心・課題をもって学習することができる。 3) 人類に共通する諸課題を任意に設定し、課題探求に対する主体性・創造性を育むことができる。					
評価方法	定期試験 (%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (100 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 				

授業名	総合基礎演習Ⅱ yd		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	岸 優子		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	総合基礎演習Ⅰを踏まえ、子どもや子育てについて、各自の研究課題を深める。諸外国の子育てについても視野をひろげる。また、ゼミ生同士の交流を深め、協力しながらお互いに学び合うことをめざす。					
学習成果到達目標	1) 乳幼児の保育に関わる保育者の役割と課題を理解し、子育てについて視野をひろげ、知見を深める。 2) 深い洞察力和豊かな人間性を備えるとともに、感性豊かな保育者となることをめざす。 3) 子育て支援の概要を理解出来るようになる。					
評価方法	定期試験 (20 %) □筆記試験 ☒ レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験 □筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 (80 %) □口述 ☒ 実習 ☒ 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 				

授業名	総合基礎演習Ⅱ ye		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	堀出 雅人		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	1 回生秋学期のゼミであり、総合基礎演習Ⅰに引き続き、学生と教員の交流を基盤にし、大学で学ぶことへの興味・関心をさらに掘り下げ、学習・研究方法に関する基礎的な知識を得るための各種資料の収集方法や文献の探索方法等について、ゼミでの発表を通して実際に学んでいく。設定された課題に対してレポートを作成し、諸課題の設定のプロセスから課題探求に至るまでをゼミで発表し、ゼミ学生が 相互に質疑応答等、発表スキルも身に付けながら、自らの興味・関心をさらに深め、今後の大学での課題研究に活かしていく素地を作る。					
学習成果到達目標	1) コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身に付けることができる。 2) 興味・関心・課題をもって学習することができる。 以上2点から、春学期からのさらなる成長をめざし、幅広い視野、知識、教養を養うなかで、自己の課題を見出し、深い洞察力と豊かな人間性を伸ばすことをめざします。					
評価方法	定期試験 (%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (100 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 				

授業名	総合基礎演習Ⅱyf		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	浅田 瞳		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	造形遊びや華頂祭への参加を自主的に計画し主体的な授業を計画する。また、大学に入学したばかりの学生がよりよい大学生活を行うために必要なスキルや知識を身につけ、大学生活が円滑に送れるような演習を行う。					
学習成果到達目標	1) 学内外において、教育・保育の体験を積み重ね、専門知識の幅を広げ、実践力を身につけることができる。 2) 乳幼児期の人間形成に重要な役割を担う自覚を持つことができる。 3) 他者との協調を図り、豊かな人間関係を築くことができる。					
評価方法	定期試験 (%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (100 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の 観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 				

授業名	総合基礎演習Ⅱ yg		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	鈴木 えり子		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	総合基礎演習Ⅰに引き続き、学びに対する興味関心を深める。各自で課題を設定し、教材（創作絵本・パネルシアター）の制作、発表をする。					
学習成果到達目標	1）自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う。 2）深い洞察力和豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす。					
評価方法	定期試験（ %） □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ 100 %） □筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 □口述 □実習 ☒ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 □(				

授業名	総合基礎演習Ⅱyh		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	名賀 亨		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	日々の生活の中で発生する様々な出来事に関心を持ち、その背景と問題点や課題について考察する。そして、そのことを通して、一人の社会人、さらには良き保育者としての態度と視点を育てて行く。					
学習成果到達目標	1) グループメンバーとして、活動内容を理解し、その役割に沿った活動が適切にできる。 2) 自己が興味や関心を持ち設定した研究テーマに対する一連の研究活動が主体的にできる。 3) 自己の研究活動に対する成果をまとめ、発表し提出することができる。					
評価方法	定期試験 (60 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (40 %) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☐ () ☐ ()				
テキスト	プリント・資料等を適宜配布する。					
参考書	随時紹介する。					
留意事項	秋学期の目標として、全体活動と個人研究活動の2点について取り組みを、アクティブラーニングの手法に則って進めて行く。主体的かつ積極的な参加を期待する					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	夏休みの課題発表		(内 容) 夏休みの課題と目標の達成に向けた進捗状況発表 (必要な準備) 発表の準備			
第2回	夏休みの課題発表		(内 容) 夏休みの課題と今後の抱負の発表 (必要な準備) 発表の準備			
第3回	保育に関する地域課題の調査		(内 容) 調査の実施 (必要な準備) 調査方法を決定しておく			
第4回	保育に関する地域課題の調査		(内 容) 調査の実施 (必要な準備) 調査方法を決定しておく			
第5回	保育に関する地域課題の調査		(内 容) 調査の実施 (必要な準備) 前回の調査をまとめておく			
第6回	保育に関する地域課題の調査		(内 容) 調査の実施 (必要な準備) 前回までの調査をまとめておく			
第7回	中間発表		(内 容) 進行状況の報告、ディスカッション (必要な準備) これまでの調査結果をまとめておく			
第8回	中間発表		(内 容) 進行状況の報告、ディスカッション (必要な準備) これまでの調査結果をまとめておく			
第9回	調査		(内 容) 不足部分の調査を行う (必要な準備) ディスカッションをうけて、不足部分の整理			
第10回	発表の準備		(内 容) 発表資料の作成 (必要な準備) 調査結果をまとめておく			
第11回	発表の準備		(内 容) 発表資料の作成 (必要な準備) 発表内容を検討しておく			
第12回	調査内容の発表		(内 容) ゼミ内で調査内容を発表し共有化 (必要な準備) 発表内容を検討しておく			
第13回	研究発表		(内 容) ゼミ内で調査内容を発表し共有化 (必要な準備) 発表内容を検討しておく			
第14回	成果発表		(内 容) 目標の到達度を各自まとめて発表する (必要な準備) 発表の準備			
第15回	成果発表		(内 容) 目標の到達度を各自まとめて発表する (必要な準備) 発表の準備			
オフィスアワー	水曜日 昼休み					

授業名	総合基礎演習Ⅱ yi		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	藤井 裕子		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概 要	短期大学での2年間の学習の成果が出るように、主体的に学ぶ姿勢を身につける。 レポートの作成や文献の収集、プレゼンテーションの方法を学ぶ。 子どもに関する社会の出来事や保育関連の情報に関心を持ち視野を広げる。					
学習成果到達目標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う。 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす。 3) 人間形成の基礎としての保育に関わることを自覚する。					
評価方法	定期試験 (50 %)		□筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験 (50 %)	
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 ☒ 創造性) □()				
テキスト	プリント					
参考書	随時提示する					
留意事項	主体的に学び、テーマを掘り下げる。積極的に参加し協力して、発表もしっかり行うこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	夏期休業中の課題についての確認。 秋学期のガイダンス。		(内 容) 夏期休業中の課題の確認。秋学期への心構えを話し合う。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第2回	大学行事へ参加し積極的に役割を果たす		(内 容) 大学行事の目的を理解し、積極的に参加する。行事への準備をする。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第3回	大学行事へ参加し積極的に役割を果たす		(内 容) 大学行事の目的を理解し、積極的に参加する。行事への準備をする。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第4回	大学行事へ参加し積極的に役割を果たす		(内 容) 大学行事の目的を理解し、積極的に参加する。行事への準備をする。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第5回	学外授業		(内 容) 大学周辺の史跡や文化施設を見学する。 (必要な準備) 配布プリントを読む。			
第6回	保育内容の研究		(内 容) 季節に応じた保育内容を研究する。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第7回	保育内容の研究		(内 容) 季節に応じた保育内容を研究する。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第8回	保育内容の研究		(内 容) 季節に応じた保育内容を研究する。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第9回	外国の家庭教育や幼児教育について学ぶ。		(内 容) 他国の文化や家庭教育について留学生のゲストスピーチを聞いて視野を広げる。 (必要な準備) ノート			
第10回	茶道の基本を学ぶ。		(内 容) 茶道の基本の所作、抹茶の立て方、いただき方を学ぶ。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第11回	各自の学習テーマの進捗状況の確認		(内 容) テーマにそって学習成果をまとめる (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第12回	各自の学習テーマの進捗状況の確認		(内 容) テーマにそって学習成果をまとめる。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第13回	各自の学習テーマの進捗状況の確認		(内 容) テーマにそって学習成果をまとめる。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第14回	各自の成果と課題の発表、意見交換、		(内 容) 1年間を通じた成果と今後の課題をまとめる。 (必要な準備) プリント、ノート、ファイル			
第15回	各自の成果と課題の発表、意見交換、、		(内 容) 1年間を通じた成果と今後の課題をまとめる。 (必要な準備) レポート、ファイル、ノート			
オフィスアワー	随時研究室に日時を提示する					

授業名	総合基礎演習Ⅱyj		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	坂口 みゆき		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	春学期に引き続き、季節感のある物事・生命・音楽などに触れ、幼児期の生身の体験とその感動を思い出す。絵本製作を通して、子どもの成長における絵本の役割を学ぶ。また、それらの学びを通して、子どもの目線になって考えたり感じたりすることの大切さを学ぶ。					
学習成果到達目標	自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養い、深い洞察力和豊かな人間性を備えた有意な人材の育成をめざす。					
評価方法	定期試験 (20 %) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技		平常試験 (80 %) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	☐ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☐ () ☐ ()				
テキスト	使用しない。					
参考書	使用しない。					
留意事項	まず自分自身が様々な体験を通して学ぶことが、子どもへの教育・保育へと繋がると 생각합니다。積極的に取り組む意欲や姿勢を重視します。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	イントロダクション		(内 容) 秋学期の授業についての説明。 絵本制作のイントロダクション (必要な準備)			
第2回	絵本制作①:テーマについて考える		(内 容) グループに分かれて、絵本のテーマについて ディスカッションし、発表する。 (必要な準備) テーマについて考えてくる。			
第3回	絵本制作②:作業開始		(内 容) 絵本作りのルールの確認。 制作の開始。 (必要な準備) 絵本の内容を考えてくる。			
第4回	絵本制作③:作業		(内 容) 絵本制作 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。			
第5回	絵本制作④:作業		(内 容) 前回からのつづき。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。			
第6回	絵本制作⑤:完成		(内 容) 前回からの続き。絵本の完成。 (必要な準備) 必要に応じて作業を進めておく。			
第7回	学外授業:秋の遠足		(内 容) 大学周辺を探索し、秋らしさに触れる。次回制作 をするので、メモをとったり、写真を撮ったり、 落ち葉などを拾ったりしながら歩く。 (必要な準備) 歩きやすい服装と靴・メモ用紙など			
第8回	遠足の事後学習①:製作		(内 容) 前回の遠足の振り返り(製作) (必要な準備) 前回収集したものやメモ			
第9回	遠足の事後学習②:発表		(内 容) 前回の製作物の発表 (必要な準備) 製作物。前回完成しなかった人は仕上げてくる。			
第10回	クリスマスの製作		(内 容) クリスマスに因んだ製作 (必要な準備) 牛乳パック			
第11回	クリスマスの音楽①		(内 容) クリスマスの音楽を合唱または合奏する。 (必要な準備) 譜読み			
第12回	クリスマスの音楽②		(内 容) 前回とは違う曲を合唱または合奏する。 (必要な準備) 譜読み			
第13回	お正月の音楽		(内 容) お正月の音楽を演奏する。 (必要な準備) お正月の歌を考えてくる。			
第14回	お正月の遊び		(内 容) お正月の伝承遊びを体験する。 (必要な準備) どんな遊びがあるか調べてくる。			
第15回	まとめ		(内 容) 1年を振り返り、感想、気づいたこと、来年度 に向けての課題などを発表し共有する。 (必要な準備) 発表する内容を考えておく。			
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。					

授業名	総合基礎演習Ⅱyk		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	山部 泰司		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	絵本や造形作品の制作活動を通して、造形的な表現力を養う。また、様々な素材から造形活動を展開できる方法について考える。学生が相互の関わりからコミュニケーション能力を学ぶことのできる演習にしたい。					
学習成果 到達目標	1) 制作などを通して、自ら表現の方法を工夫できる力を養う。 2) 表現活動によって、様々な領域への興味関心を深める。 3) お互いの個性を理解し、長所に気付く。					
評価方法	定期試験 (60%)		☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (40%)	
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☐ () ☐ ()				
テキスト	使用しない。					
参考書	必要に応じて指示する。					
留意事項	造形活動にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい気持ちを忘れないこと。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス		(内 容) 絵本の制作について (必要な準備) 事前にシラバスを読んでおく			
第2回	絵本の制作①		(内 容) 作る絵本の構想を練る (必要な準備) 絵本などを見ておく			
第3回	絵本の制作②		(内 容) ストーリーを決める (必要な準備) ストーリーに関する資料を用意する			
第4回	絵本の制作③		(内 容) 原画制作 (必要な準備) 特に必要な道具や材料があれば持参する			
第5回	絵本の制作④		(内 容) 文字部分の制作 (必要な準備) 文字部分の制作に必要なものを用意する			
第6回	絵本の制作⑤		(内 容) ページ貼り合わせ 表紙制作 (必要な準備) 特に使いたい道具や材料があれば持参する			
第7回	絵本の制作⑥		(内 容) 製本完成 (必要な準備) 自分の本としての工夫を考える			
第8回	絵本制作のまとめ		(内 容) 絵本の発表、制作の振り返り (必要な準備) 取り組みについてまとめておく			
第9回	教材研究①		(内 容) 材料（自然物など）を集める (必要な準備) 指導事例などを調べておく			
第10回	教材研究②		(内 容) 集めた材料の加工をする (必要な準備) 自分で使ってみたい材料があれば持参する			
第11回	教材研究③		(内 容) 材料を組み合わせる作品を完成させる (必要な準備) 作品の活用について考える			
第12回	造形遊び①		(内 容) 造形遊びについて (必要な準備) 子どもの遊びについて調べておく			
第13回	造形遊び②		(内 容) 造形で遊ぶ (必要な準備) 自分の取り組みについて調べておく			
第14回	フィールドワーク		(内 容) 展覧会見学 (必要な準備) 展覧会について調べておく			
第15回	まとめ		(内 容) 一年間の振り返り (必要な準備) 自分の取り組みについてまとめておく			
オフィス アワー	学生の希望にあわせて調整する。					

授業名	総合基礎演習Ⅱyl		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Freshman SeminarⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	小川 隆昭		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	Iを更に発展させ、グループ発表・個別発表を通して幼児教育指導者としての能力を身につける。					
学習成果到達目標	1) 自己の課題を見出し、幅広い視野、知識、教養を養う。 2) 深い洞察力と豊かな人間性を備えた有為な人材の育成をめざす。					
評価方法	定期試験 (20 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 ☒ 実技		平常試験 (80 %) □筆記試験 □レポート ☒ 制作物 □口述 □実習 ☒ 実技			
評価基準	主たる評価の観点	□知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 <input 6"="" checked="" type="checkbox/>(チームワーク・リーダーシップ) □()</td></tr><tr><td>テキスト</td><td colspan="/> 使用しない。				
参考書	使用しない。					
留意事項	グループ指導と個別指導を多用する。将来の保育者としての自覚を持つ。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	ガイダンス・夏休みの課題提出		(内 容) 今後の説明 (必要な準備) 夏休みの課題を持ってくる (手作り楽器)			
第2回	夏休みの課題発表		(内 容) 発表 (必要な準備) 手作り楽器練習			
第3回	夏休みの課題発表		(内 容) 発表 (必要な準備) 手作り楽器練習			
第4回	個別相談		(内 容) 実習などの相談 (必要な準備)			
第5回	個別相談		(内 容) 実習などの相談 (必要な準備)			
第6回	合唱		(内 容) 〔合唱〕簡単な2部合唱 (必要な準備)			
第7回	合唱		(内 容) 〔合唱〕簡単な2部合唱 (必要な準備)			
第8回	アンサンブル		(内 容) 少人数での歌のアンサンブル (必要な準備) 練習する事			
第9回	アンサンブル		(内 容) 少人数での歌のアンサンブル (必要な準備) 練習する事			
第10回	アンサンブル		(内 容) 少人数での歌のアンサンブル (必要な準備) 練習する事			
第11回	歌唱・手遊び		(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導 (必要な準備) 一人一種類、皆に 指導できること			
第12回	歌唱・手遊び		(内 容) 子どものうたの歌唱と手遊び指導 (必要な準備) 一人一種類、皆に 指導できること			
第13回	合奏、		(内 容) 〔合奏〕クリスマス曲 (必要な準備)			
第14回	合奏		(内 容) 〔合奏〕クリスマス曲 (必要な準備)			
第15回	まとめ		(内 容) 実習への目標・意気込みなどを一人ずつ発表。 (必要な準備) 実習の目標・意気込みをまとめてくる。			
オフィスアワー	後日研究室前に掲示。					

授業名	人間と仏教 I a・I c・I d		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Human and Buddhism I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	榎本 正明		対象学生	歴史1回生、幼児教育1yd～yf、yg～yi		
サブテーマ	ブッダの生涯と教え					
授業の概 要	本演習は仏教の起源である開祖ブッダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブッダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブッダの生涯」「ブッダの教え」という4つのテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブッダの生涯、ブッダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。					
学習成果到達目標	1）建学の理念を理解する。 2）仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解する。 3）仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解する。					
評価方法	定期試験 （ 100 % ）		☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 （ % ） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ （ 汎用能力 ） ☐ （ ）				
テキスト	『ブッダの教え』 佛教大学仏教学科 編（佛教大学通信教育部）					
参考書	使用しない。					
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	「宗教とは何か」		(内 容) 日本人の宗教観について共に考える。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。			
第2回	「宗教とは何か」		(内 容) 宗教の目的と意義について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第3回	「宗教とは何か」		(内 容) 宗教の分類と「仏教」の位置付けについて概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第4回	「仏教成立の時代背景」		(内 容) 仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアーリア人のインド侵入の時期までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第5回	「仏教成立の時代背景」		(内 容) アーリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想（業・輪廻）について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第6回	「仏教成立の時代背景」		(内 容) 仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、 仏教という新宗教誕生の必然性を考察する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第7回	「ブッダの生涯」		(内 容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第8回	「ブッダの生涯」		(内 容) ブッダの出家の経緯について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第9回	「ブッダの生涯」		(内 容) ブッダの出家・修行時代を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第10回	「ブッダの生涯」		(内 容) ブッダの「さとり」を中心として種々なエピソードを含めつつ概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第11回	「ブッダの教え」		(内 容) ブッダの教説「四諦説」の苦聖諦・苦集聖諦を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第12回	「ブッダの教え」		(内 容) 「四諦説」の苦滅聖諦・苦滅道聖諦と八正道について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第13回	「ブッダの教え」		(内 容) 「縁起説」について概説し、ブッダの教説が現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第14回	「ブッダの生涯」		(内 容) ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第15回	講義総括		(内 容) 講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。					

授業名	人間と仏教 I b・I e		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Human and Buddhism I		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	工藤 美和子		対象学生	幼児教育1ya～yc・yj～yl		
授業の概要	宗教は鎮魂や芸術素材のためだけに存在しているのではなく、生身の人間にとって生きる指針を示すものでなければならない。本講では人がどう生きればよいのかを問うた、仏教の開祖ゴータマ・ブッダ（釈迦牟尼仏）の生涯を見つめ、仏教思想に学ぶことをねらいとする。					
学習成果到達目標	1）仏教を含む宗教がなぜ人間にとって必要不可欠なことであるのかについて理解する。 2）宗教、仏教に関して正しい知識の涵養に努める。					
評価方法	定期試験（ 100 % ） □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験（ % ） □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	☑知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ☑課題発見・解決能力 ☑（講義中に行う小テスト） ☑（講義に対する意欲）				
テキスト	佛教大学・編『ブッダの教えと生涯』（佛教大学通信教育学部）					
参考書	参考プリント類は講師が手配する。					
留意事項	講義に関連した小テストを行う。評価基準にもなるので心して受講すること。 講義中の私語および携帯・スマホの使用厳禁。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	宗教とは		(内 容) 宗教とは何かについて考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第2回	仏教以前の社会と宗教―他者の発見		(内 容) ブッダ誕生以前のインド社会について。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第3回	ブッダの生い立ち		(内 容) 伝説的な生涯にこめられた意味を考える (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第4回	ブッダの成長―修行そして成道		(内 容) 修行から悟りまでのブッダの生涯を学ぶ。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第5回	ブッダの死―最後の説法		(内 容) ブッダの死について理解する。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第6回	ブッダの思想1―対立を超える		(内 容) 全宗教にある対立と融和について考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第7回	この世界のあり方1―中道と縁起		(内 容) 中道と縁起について考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第8回	この世界のありかた2―四つの真理		(内 容) 四諦について考える (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第9回	この世界のありかた3―八つの正しい道		(内 容) 八正道について考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第10回	仏教の諸相1 大乘仏教の誕生		(内 容) 大乘仏教の起源について考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第11回	仏教の諸相2 菩薩の誕生		(内 容) 菩薩の誕生とその必要性 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第12回	大乘経典の制作―経典誕生の謎		(内 容) 経典の制作がなぜ行われたのかを考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第13回	大乘仏教経典―般若経と維摩経		(内 容) 般若経と維摩経について考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第14回	大乘仏教経典―法華経と浄土経典		(内 容) 法華経と浄土教経典について考える。 (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
第15回	大乘仏教のめざすもの		(内 容) 今後の仏教と自分の関わり方を考える (必要な準備) テキストの当該箇所を読んでおく。			
オフィスアワー	月曜日昼休み					

授業名	人間と仏教Ⅱa・Ⅱc・Ⅱd		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Human and BuddhismⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	榎本 正明		対象学生	歴史1回生、幼児教育1yd～yf、yg～yi		
授業の概要	本演習は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という4つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。					
学習成果到達目標	1) 建学の理念を理解する。 2) 法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解する。 3) 法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解する。					
評価方法	定期試験 (100 %)		☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技		平常試験 (%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技	
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 汎用能力) <input 6"="" type="checkbox/>(</td></tr><tr><td>テキスト</td><td colspan="/> 『法然上人のご生涯とその教え』 佛教大学 編（佛教大学通信教育部）				
参考書	使用しない。					
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	「浄土教とは」		(内 容) ブッダ亡き後の仏教教団の形成について概説する。 (必要な準備) 人間と仏教Ⅰのノートを読み返しておくこと。			
第2回	「浄土教とは」		(内 容) 部派仏教から大乘仏教成立までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第3回	「浄土教とは」		(内 容) 浄土教思想の誕生と形成を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第4回	「浄土教とは」		(内 容) 中国での浄土教思想の発展を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第5回	「法然上人の生きた時代」		(内 容) 日本への仏教伝来から奈良仏教までを概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第6回	「法然上人の生きた時代」		(内 容) 平安時代の仏教を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第7回	「法然上人の生きた時代」		(内 容) 日本での浄土教思想の展開を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第8回	「法然上人の生涯」		(内 容) 誕生から出家・修学時代を概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第9回	「法然上人の生涯」		(内 容) 求道の遍歴から浄土宗開宗について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第10回	「法然上人の教え」		(内 容) 阿弥陀仏の本願について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第11回	「法然上人の教え」		(内 容) 往生と成仏について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第12回	「法然上人の教え」		(内 容) 本願念仏から選択本願念仏について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第13回	「法然上人の教え」		(内 容) 念仏のこころ、愚者の自覚について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第14回	「法然上人の生涯」		(内 容) 念仏の興隆と法難、法然上人以後の展開について概説する。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
第15回	講義総括		(内 容) 講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (必要な準備) 前回授業のノートを読み返しておくこと。			
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。					

授業名	人間と仏教Ⅱb・Ⅱe		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Human and BuddhismⅡ		開講時期	秋学期	必修・選択	必修
担当者	工藤 美和子		対象学生	幼児教育1ya～yc・yj～yl		
授業の概要	浄土宗の開祖法然上人の思想と生涯を学びながら現代の我々との関係について考えていく。					
学習成果到達目標	日本仏教史上で、法然上人が果たした役割と現代社会への影響について考察したい。					
評価方法	定期試験 (100 %)		□筆記試験 ☒ レポート □制作物 □口述 □実習 □実技		平常試験 (%) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	
評価基準	主たる評価の 観点	☒ 知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ （講義内での小テスト） ☒ （講義に対する意欲)				
テキスト	佛教大学 編『法然上人のご生涯とその教え』（佛教大学通信教育部）					
参考書	『法然上人絵伝（上）・（下）』（岩波文庫）、菊地勇次郎『源空とその門下』（法蔵館）					
留意事項	講義中の私語・携帯・スマホの使用は厳禁。 講義中に小テストを行う。なお、評価基準にもなるので心して受講すること。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	ガイダンス			(内 容) 春学期の復習。 (必要な準備) ブッダの教えについて復習しておくこと。		
第2回	日本仏教について―仏教伝来から奈良時代			(内 容) 仏教が日本に伝来受容されたかを考える。 (必要な準備) 日本仏教史について理解すること。		
第3回	日本仏教について―平安時代			(内 容) 平安時代の仏教と僧侶の活動について学ぶ。 (必要な準備) 平安時代の仏教について理解すること。		
第4回	日本仏教について―鎌倉時代			(内 容) 鎌倉時代の仏教と僧侶の活動について学ぶ。 (必要な準備) 鎌倉時代の僧侶の活躍について理解すること。		
第5回	浄土教史の流れ―中国と日本浄土教			(内 容) 浄土教とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) 浄土教について理解すること。		
第6回	法然上人の思想と生涯―誕生から比叡山へ			(内 容) 『法然上人絵伝』から誕生と登山を学ぶ。 (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第7回	法然上人の思想と生涯―比叡山登山・下山			(内 容) 比叡山で学んだ仏教と下山の理由を考える。 (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第8回	法然上人の思想と生涯―念仏の広まり			(内 容) 南都遊学から善導との出会いまでを学ぶ。 (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第9回	法然上人の思想と生涯―専修念仏の教え			(内 容) 法然教団の形成から晩年までを学ぶ。 (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第10回	法然上人の思想と生涯―浄土三部経			(内 容) 浄土三部経について学ぶ。 (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第11回	法然上人の思想と生涯―『選択本願念仏集』			(内 容) 『選択本願念仏集』の教えについて学ぶ。 (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第12回	法然上人の思想と生涯―三心と四修			(内 容) 三心と四修の考え方について学ぶ (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第13回	法然上人の思想と生涯―悪人正機と女人往生			(内 容) 悪人正機と女人往生について学ぶ。 (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第14回	法然上人の思想と生涯―その継承者たち			(内 容) 法然上人の門弟たちの活動について学ぶ。 (必要な準備) 配布した資料をよく読み復習を行うこと。		
第15回	我々の願い―まとめにかえて			(内 容) 我々が法然上人から学ぶべきことを考える。 (必要な準備) それぞれが考えたことをまとめること。		
オフィスアワー	月曜日昼休み					